

平成23年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金）実績報告書（研究実績報告書）

1. 機関番号 3 2 6 0 4      2. 研究機関名 大妻女子大学
3. 研究種目名 基盤研究(C)      4. 研究期間 平成22年度～平成24年度
5. 課題番号 2 2 5 3 0 9 2 8
6. 研究課題名 「学校に行かない」子どもの教育権保障をめぐる教育臨床社会学的研究

7. 研究代表者

研究者番号	研究代表者名	所属部局名	職名
9 0 2 1 1 9 2 9	サカイ アキラ 酒井 朗	教職総合支援センター	教授

8. 研究分担者(所属研究機関名については、研究代表者の所属研究機関と異なる場合のみ記入すること。)

研究者番号	研究分担者名	所属研究機関名・部局名	職名
3 0 1 7 3 5 7 9	ホサカ トオル 保坂 亨	千葉大学・教育学部	教授
7 0 4 2 4 0 8 3	キムラ フミカ 木村 文香	江戸川大学・社会学部	講師
7 0 2 5 1 5 6 9	イトウ シゲキ 伊藤 茂樹	駒澤大学・総合教育研究部	教授
4 0 2 9 6 7 6 0	ヨダマ シゲオ 小玉 重夫	東京大学・教育学研究科	教授

9. 研究実績の概要

下欄には、当該年度に実施した研究の成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、交付申請書に記載した「研究の目的」、「研究実施計画」に照らし、600字～800字で、できるだけ分かりやすく記述すること。また、国立情報学研究所でデータベース化するため、図、グラフ等は記載しないこと。

本研究は、長期間にわたり学校に行かないでいる多様なタイプの子どもの問題を、教育権の保障という観点から統一的に捉えることで、日本の教育問題の理解に再考を迫るとともに、法制度や行政システムを批判的に検討するものである。

本年度はとくに高校中退問題に焦点を当てて4つの課題に取り組んだ。①国勢調査による、高卒学歴を持たない成人割合の算出、②在籍する高校を辞めていく生徒の推計、③中退後に転学先または編入先を得られた者に対するインタビュー調査、④進路多様校における進路変更（中途退学）の状況に関する担任教員に対する調査。理論的には、Furlong(1997)の指摘した移行過程の直線型/非直線型という枠組みや、後期近代における自己の軌跡という視点からのアプローチなどに基づいている。

このほか児童養護施設在籍児童の中卒後の進路動向、中卒非進学・非就職と家庭背景・長期欠席・学力の関係、高校における不登校から再登校への過程についての研究など、関連する各テーマについて分析を進めた。

また、これらの問題に対応するために学校の福祉的機能を強化していこうとするイギリスの拡張学校（エクステンディッド・スクール）の取り組みに学ぶために、同国マンチェスター市を訪問し、現地の学校視察を行った。

理論的な観点からは、アガンベンの議論を手がかりにして、今日の不登校・中退問題の理論的な含意を「難民化する子ども」という視点からとらえようとする議論を深化させた。

10. キーワード

- (1) 長期欠席      (2) 不登校      (3) 不就学      (4) 学校に行かない子ども
- (5) エクステンディッド・スクール      (6)      (7)      (8)